

株主・投資家のみなさまへ

第116期 第2四半期ビジネスレポート

2017年4月1日～2017年9月30日

証券コード: 6516

<http://www.sanyodenki.co.jp>

SANYO DENKI

116th



株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

第116期の第2四半期のビジネスレポートのお届けにあたりまして、ひとことごあいさつを申し上げます。

当社グループでは、昨年4月に第8次中期経営計画を開始し、1年半が経過しました。

この計画では、

- 1 品質・性能・信頼性において、「世界一の製品」を絶え間なく開発し続けること。
- 2 世界中のお客さまに、均一で高品質な製品やサービスを提供するために、すべてのグループ会社がその経営方針を同一にして「ボーダーレス」の営業体制にすること。
- 3 すべての情報の流れを「リアルタイム」にし、世界中どこからでも、企業活動に関わる現在のあらゆる状況を把握できるようにすること。

4 生産効率を高め、品質を向上させ、あわせて在庫の削減や生産管理に役立つ「工場の自動化」を構築すること。

を目指し、それぞれ具体的な施策を実施しております。

長野県上田市の工場では、モータの生産およびサーボアンプのプリント基板の生産について、自動化のラインが稼働を始めました。

フィリピンの工場では、工場の拡張がこの秋に完成し、生産能力が増強されました。

新製品の開発については、後述のとおり、業界No.1を誇る競争力のある多くの製品が、計画どおりに完成いたしました。

当第2四半期は、当社の主要な市場のひとつであるFA業界の需要が活発であったことにより、事業の結果は後述のとおりとなりました。

なお、本年6月14日開催の第115回定時株主総会の決議に基づきまして、本年10月1日をもって、当社普通株式について5株を1株に併合いたしました。

当第2四半期末の配当金につきましては、1株あたり10円といたしました。

株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

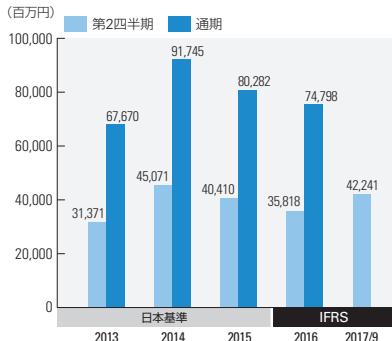
2017年12月

代表取締役兼社長 山本茂生

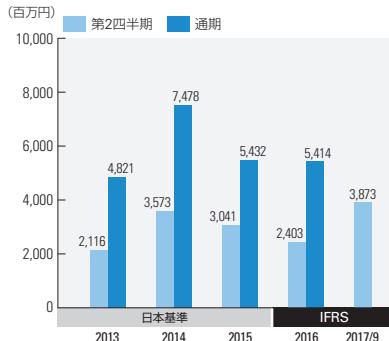
財務ハイライト

2016年度より、国際財務報告基準（IFRS）に基づき算出しています。

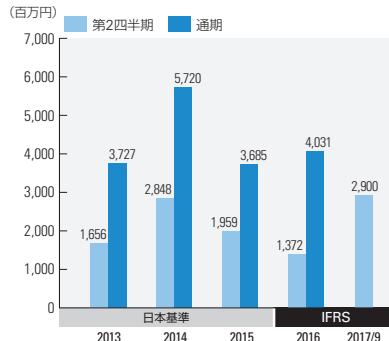
●売上収益



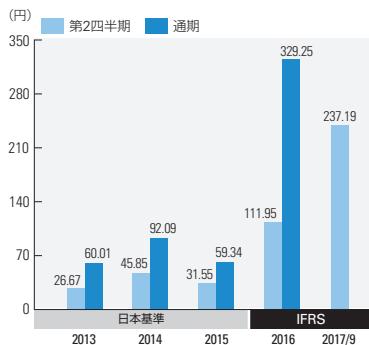
●営業利益



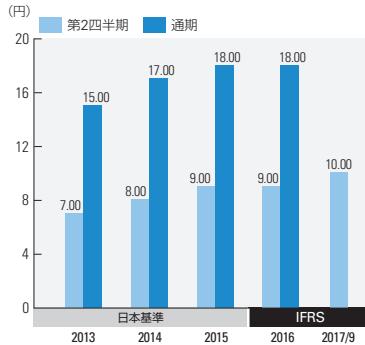
●親会社の所有者に帰属する当期利益



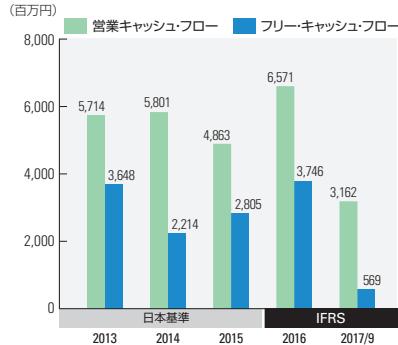
●基本的1株当たり当期利益



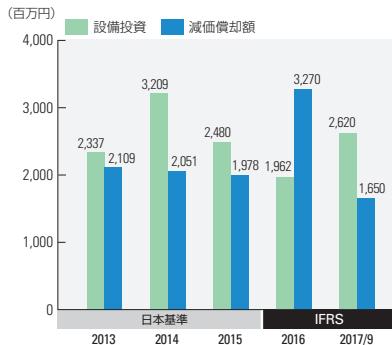
●1株当たり配当金



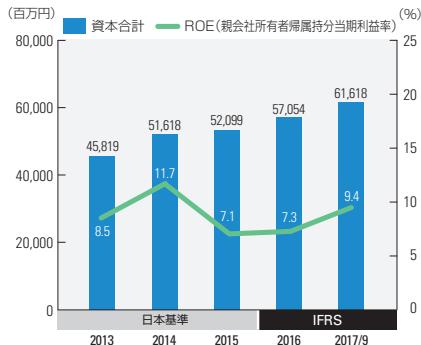
●キャッシュ・フロー/フリー・キャッシュ・フロー



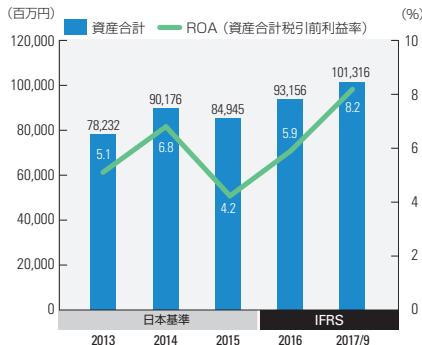
●設備投資/減価償却額



●資本合計/ROE(親会社所有者帰属持分当期利益率)



●資産合計/ROA(資産合計税引前利益率)



※ 1. 2017年10月1日付で普通株式5株を1株に併合しています。これにともない前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、基本的1株当たり当期利益を算定しています。
 2. 従来、連結財務諸表の作成にあたっては、海外連結子会社14社の3ヶ月前の財務諸表を使用し、連結会計上必要な調整をおこなっていましたが、連結財務諸表のより正確な把握を図るために、2014年度より海外連結子会社においても当社と同時期の財務諸表を使用する方法に変更しています。このため、2014年度実績には、海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの3ヶ月間の業績も含まれています。

営業概況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、輸出の回復に加えて国内需要も堅調に推移し、着実に回復しました。

そのような中で、当社グループの主要な販売市場である工作機械、ロボット、半導体製造装置などの設備産業業界においては、需要が活発に推移しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における連結売上収益は42,241百万円（前年同期比17.9%増）となり、連結営業利益は3,873百万円（前年同期比61.1%増）、連結税引前四半期利益は3,994百万円（前年同期比106.2%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は2,900百万円（前年同期比111.3%増）となりました。

受注高は48,598百万円（前年同期比33.3%増）、受注残高は20,994百万円（前年同期比67.4%増）となりました。

売上収益

422億41百万円 前年同期比**17.9%**増

営業利益

38億73百万円 前年同期比**61.1%**増

税引前四半期利益

39億94百万円 前年同期比**106.2%**増

親会社の所有者に帰属する四半期利益

29億00百万円 前年同期比**111.3%**増

受注高

485億98百万円 前年同期比**33.3%**増

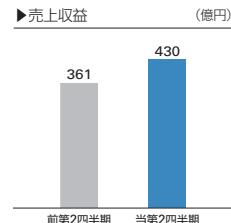
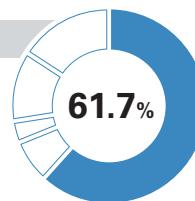
受注残高

209億94百万円 前年同期比**67.4%**増

セグメント別の業績

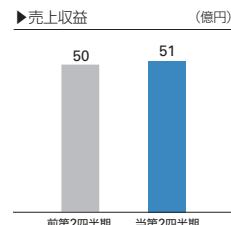
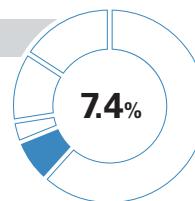
日本

日本には、当社および連結子会社の山洋工業株式会社、山洋電気テクノサービス株式会社があります。セグメント売上収益は43,042百万円（前年同期比19.2%増）となり、セグメント利益は2,824百万円（前年同期比85.8%増）となりました。



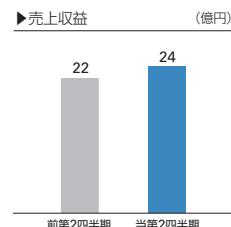
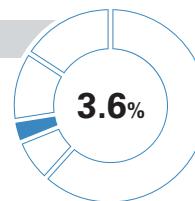
北米

北米には、連結子会社のSANYO DENKI AMERICA, INC.があります。セグメント売上収益は5,147百万円（前年同期比2.5%増）となり、セグメント利益は298百万円（前年同期比29.2%減）となりました。



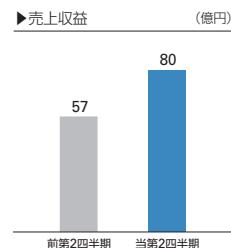
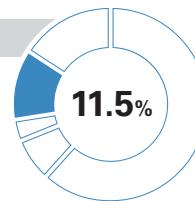
ヨーロッパ

ヨーロッパには、連結子会社のSANYO DENKI EUROPE S.A.およびSANYO DENKI GERMANY GmbHがあります。セグメント売上収益は2,491百万円（前年同期比12.2%増）となり、セグメント利益は221百万円（前年同期比24.6%増）となりました。



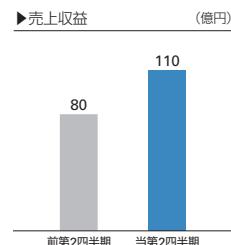
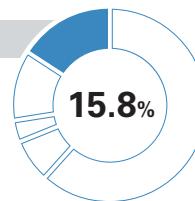
東アジア

東アジアには、連結子会社の山洋電気（上海）貿易有限公司、山洋電気（香港）有限公司、台湾山洋電気股份有限公司、SANYO DENKI KOREA CO., LTD., 上海山洋電気技术有限公司、山洋電気貿易（深圳）有限公司、中山市山洋电气有限公司および山洋電気精密机器维修（深圳）有限公司があります。セグメント売上収益は8,012百万円（前年同期比38.9%増）となり、セグメント利益は360百万円（前年同四半期は3百万円）となりました。



東南アジア

東南アジアには、連結子会社のSANYO DENKI PHILIPPINES, INC., SANYO DENKI SINGAPORE PTE. LTD., SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITEDおよびSANYO DENKI (THAILAND) CO., LTD.があります。セグメント売上収益は11,006百万円（前年同期比36.9%増）となり、セグメント利益は387百万円（前年同期比123.0%増）となりました。



第8次中期経営計画の取り組み



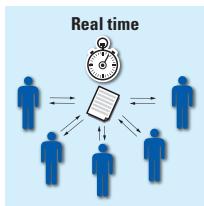
Borderless

ボーダーレス



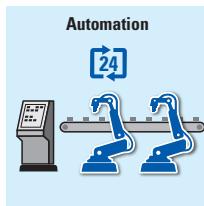
World-leading Products

世界一の製品開発



Real time

リアルタイム



Automation

工場の自動化

“生産革新ライン”で 世界トップのものづくりを実現

2016年4月にスタートした第8次中期経営計画では、「世界一の製品開発」「ボーダーレス」「リアルタイム」「工場の自動化」の4つを取り組みのテーマとしています。

その中でも、大きな成果をあげているのが「工場の自動化」の取り組みです。

ここでは、当社グループ独自の“生産革新ライン”を活用した、サーボシステム事業の取り組みをご紹介します。

サーボモータ

サーボモータの主要工場である神川工場では、ACサーボモータ(100角・130角)の巻線工程、モータの組み立て工程、検査工程を自動化しました。

全長50メートルにもなるこの自動化ラインは、巻線工程から組み立て、最終検査までの工程を一連の流れでおこない、自動で作業を完結させることができます。



自動化ライン

サーボアンプ

サーボアンプを生産する富士山工場では、サーボアンプ用制御基盤の生産工程を自動化しました。

多関節ロボットによる部品挿入や、局所噴流方式によるはんだ付け、自動検査など、自動化された一貫ラインを構築したことで、より高品質なものづくりができるようになりました。



多関節ロボット

フィリピン工場の生産能力拡大

生産能力を拡大するため、フィリピン工場の増築工事をおこないました。

増築したのは、パワーシステム製品、サーボシステム製品を生産する第3工場です。1階部分はすでに工事が完了し、2017年12月から稼動を開始します。

増築後の第3工場は、1階では、サーボモータ、ステッピングモータの機械加工、プレス、組立工程をおこない、2階では、UPS、パワーコンディショナ、サーボアンプの組立をおこないます。

この増築により、フィリピン工場全体の生産能力は20%アップします。



SANYO DENKI PHILIPPINES, INC.



第3工場（増築部分）

統合報告書を発行

本年より、「Annual Report」と「環境経営報告書」を統合した「統合報告書」を発行いたしました。

この「統合報告書」は、当社グループの企業理念をはじめ、財務状況や事業の紹介、社会貢献活動などをまとめた冊子です。

当社ホームページ (<http://www.sanyodenki.co.jp/>) でご覧いただけます。



統合報告書 2017

自己株式の取得

経営環境の変化に応じた機動的な資本政策を遂行することを目的として、自己株式を取得いたしました。

概要

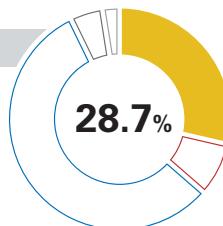
取得した株式の総数	119,600 株
単 価	7,950 円
取得総額	950,820,000 円
取 得 日	2017年11月8日

事業部門別の業績

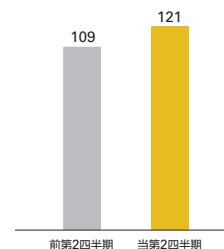
クーリングシステム事業

クーリングシステム製品「San Ace」は、サーボンプ向けの需要や、工作機械および半導体製造装置などのFA向けの需要が増加しました。また、データセンタ用サーバ向けの需要も堅調でした。一方、国内の太陽光発電用パワーコンディショナ向けの需要は減少しました。

その結果、売上収益は12,121百万円(前年同期比10.6%増)、受注高12,226百万円(前年同期比14.2%増)、受注残高3,686百万円(前年同期比25.1%増)となりました。



▶売上収益 (億円)



ブローア

San Ace 9BMCタイプ 新製品

業界トップ^{*1}の高風量、高静圧を実現した、97mm角×33mm厚のブローアです。サーバ、電源装置、印刷機、コピー機、空気清浄機、住宅用換気装置、燃料電池などに最適です。

※1 2017年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。



防水遠心ファン

San Ace 9W2Tタイプ 新製品

業界トップ^{*1}の高風量を実現した防水遠心ファンです。φ221×71mm厚、φ225×99mm厚の2タイプをラインアップしました。

保護等級IP56の防水・防塵性能で、厳しい環境でも安定した動作を保ちます。IP56でφ221×71mm厚のサイズは業界初^{*1}です。

空調機器、業務用冷蔵庫、集塵機、屋外設置型の通信機器やパワーコンディショナなどの冷却および送風に最適です。

※1 2017年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。



φ221×71mm 厚

φ225×99mm 厚

二重反転ファン

San Ace 9CRHタイプ **新製品**

業界トップ^{*1}の高静圧を実現した、40mm角×56mm厚の二重反転ファンです。
サーバ、電源装置、通信機器、ストレージなど、実装密度の高い装置の冷却に最適です。

※1 2017年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。



耐Gファン

San Ace 9GPタイプ **新製品**

高い遠心加速度に耐えられる、耐Gファンを業界で初めて^{*1}開発しました。
CTスキャン装置など、高い遠心加速や大きな振動がかかる装置の冷却に最適です。
120mm角×38mm厚、φ172×150×51mm厚の2タイプをラインアップしています。

※1 2017年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。



120mm 角 × 38mm 厚

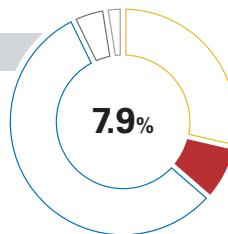


φ172 × 150 × 51mm 厚

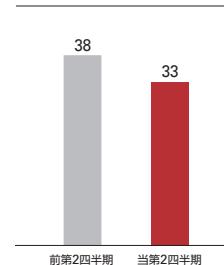
パワーシステム事業

パワーシステム製品「SANUPS」は、太陽光発電の固定価格買取制度市場の縮小により、パワーコンディショナの需要が低迷しました。一方、半導体製造装置などFA機器向けの無停電電源装置の需要は堅調に推移しました。

その結果、売上収益は3,318百万円(前年同期比14.4%減)、受注高3,883百万円(前年同期比15.8%減)、受注残高2,747百万円(前年同期比8.4%減)となりました。



▶売上収益 (億円)



常時インバータ給電方式UPS・常時商用給電方式UPS

SANUPS A11K-Li・SANUPS N11B-Li 新製品

リチウムイオン電池を搭載した、常時インバータ給電方式UPS「SANUPS A11K-Li」(屋内用)と、常時商用給電方式UPS「SANUPS N11B-Li」(屋外用)を開発しました。

使用温度範囲は、A11K-Liが-20～+55℃、N11B-Liが-20～+50℃と、それぞれ業界トップ^{*1}の性能です。極寒、酷暑の地域でも安心して使用できます。

データセンタ、通信基地局、屋外監視カメラなどへの利用に最適です。

※1 2017年12月現在。無停電電源装置で同等の電圧、容量の場合。当社調べ。



A11K-Li 屋内用



N11B-Li 屋外用

太陽光発電システム用パワーコンディショナ

SANUPS P73J 新製品

連系台数に制限のない太陽光発電システム用パワーコンディショナです。
今後の業界標準方式となるステップ注入付周波数フィードバック方式^{*1}を採用したことにより、連系台数の制限がなくなりました。また、太陽光発電の系統連系協議のための試験が不要であるため、導入コストと時間を削減できます。^{*2}

屋外でも安心して設置できる防水・防塵性能（IP65）です。

※1 停電発生時に起きる商用系統の周波数の変化により、パワーコンディショナが単独で運転をつづけていることを検出できる方式。

※2 JET認証取得済み。



SANUPS P73L 新製品

停電時に、業界トップ^{*1}の性能である最大60kVAの電力を供給できる太陽光発電システム用パワーコンディショナです。

停電が発生した時に、蓄電池と太陽電池の発電電力をあわせて、最大60kVAの電力を電気設備へ供給することができます。

蓄電池併用タイプでは、夜間にリチウムイオン電池に蓄えた電力を、太陽電池で発電した電力と合わせて昼間に使用できます。夜間電力を有効に活用できるので、電力料金を削減できます。

※1 2017年12月現在。100kW未満のピークカット機能付きシステムで比較した場合。当社調べ。



10kW

30kW

風力発電・水力発電システム用パワーコンディショナ

SANUPS W73A 新製品

風力発電・水力発電システム用パワーコンディショナを新たに開発しました。
発電に最適な条件を、風車や水車に合わせて正確に設定できる風力発電・水力発電用の三相パワーコンディショナは国内初^{*1}です。

防水・防塵性能にも優れており、保護等級はIP65です。

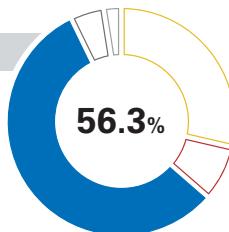
※1 2017年12月現在。三相の風力発電・水力発電システム用パワーコンディショナで比較した場合。当社調べ。



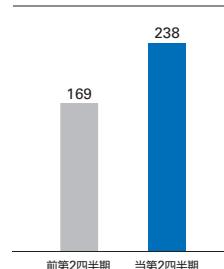
サーボシステム事業

サーボシステム製品「SANMOTION」は、主要業界である工作機械、ロボット、射出成形機、半導体製造装置および電子部品実装機向けの需要が増加しました。特に工作機械および電子部品実装機向けの需要は、中国向けスマートフォンの設備投資が活発となり、前年同期と比較して大幅に増加しました。

その結果、売上収益は23,800百万円(前年同期比40.0%増)、受注高29,802百万円(前年同期比70.0%増)、受注残高13,663百万円(前年同期比151.6%増)となりました。



▶売上収益 (億円)



ACサーボアンブ

ACサーボアンブ「SANMOTION R 3E Model」 新製品

通信周期の短いEtherCATで、装置の動作をよりなめらかにすることのできるACサーボアンブです。

EtherCATの通信周期が当社従来品^{※1}に比べ2倍短く^{※2}、よりスムーズな動作を実現できます。

安全で、効率のよいシステム構築に貢献します。

半導体製造装置、工作機械などに最適です。

※1 当社従来品SANMOTION R ADVANCED MODEL EtherCATインタフェース搭載タイプと比較した場合。

※2 最短通信周期62.5 μs (従来品は最短125 μs)



ステッピングモータ

42mm角 2相ステッピングモータ「SANMOTION F2」 新製品

2相ステッピングシステム「SANMOTION F2」シリーズのラインアップを拡充しました。

ホールディングトルク^{※1}の向上と、振動・騒音の低減により、ATMや医療検査器に使用するステッピングモータとして、業界トップの性能^{※2}を発揮します。

※1 ステッピングモータを定格電流で励磁したときに発生する最大トルク。

※2 2017年12月現在。同サイズの産業用2相ステッピングモータと比較した場合。当社調べ。

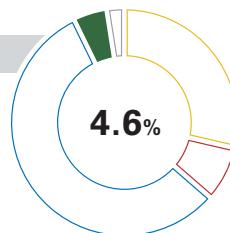


電気機器販売事業

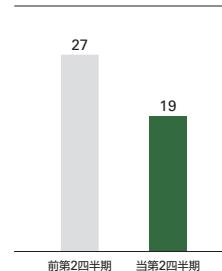
産業用電気機器、制御機器および電機材料の販売は、ロボット、工作機械関連市場向けの一般産業機器および半導体関連向けの需要は堅調に推移しましたが、太陽光発電関連機器の需要は大幅に減少しました。

鉄鋼関連事業においては、新規設備投資および老朽化した生産設備の更新が増加し、補修用予備品の納入は堅調に推移しました。

その結果、売上収益は1,949百万円(前年同期比28.6%減)、受注高1,851百万円(前年同期比26.3%減)、受注残高398百万円(前年同期比30.9%減)となりました。



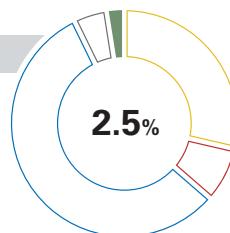
▶売上収益 (億円)



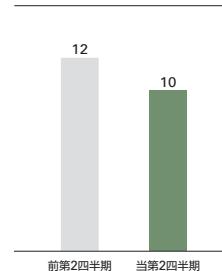
電気工事事業

製鉄所内における工場設備の改修工事および補修工事は、計画どおり実施されましたが、太陽光発電設備関連工事の需要は大きく減少しました。

その結果、売上収益は1,052百万円(前年同期比16.3%減)、受注高833百万円(前年同期比23.1%減)、受注残高497百万円(前年同期比15.0%減)となりました。



▶売上収益 (億円)



連結財務諸表

連結 財政状態計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	当第2四半期末 2017年 9月30日現在	前年度末 2017年 3月31日現在	増減額		当第2四半期末 2017年 9月30日現在	前年度末 2017年 3月31日現在	増減額
資産				負債			
流動資産	62,984	58,143	4,841	流動負債	32,938	28,610	4,328
非流動資産	38,332	35,012	3,319	非流動資産	6,759	7,491	△ 732
有形固定資産	20,493	18,916	1,576	負債合計	39,698	36,101	3,596
無形資産	3,804	3,850	△ 46	資本			
その他	14,033	12,245	1,788	親会社の所有者に帰属する持分合計	61,611	57,048	4,563
資産合計	101,316	93,156	8,160	非支配持分	7	6	0
				資本合計	61,618	57,054	4,564
				負債及び資本合計	101,316	93,156	8,160

連結 第2四半期損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	当第2四半期 2017年4月1日～ 2017年9月30日	前第2四半期 2016年4月1日～ 2016年9月30日	増減額
売上収益	42,241	35,818	6,422
売上原価	31,307	27,463	3,844
売上総利益	10,934	8,355	2,578
販売費及び一般管理費	7,131	6,058	1,072
その他の収益	77	111	△ 34
その他の費用	7	5	2
営業利益	3,873	2,403	1,469
金融収益	132	91	40
金融費用	11	558	△ 547
税引前四半期利益	3,994	1,936	2,057
法人所得税費用	1,093	564	529
四半期利益の帰属			
親会社の所有者	2,900	1,372	1,527
非支配持分	0	0	△ 0
四半期利益	2,900	1,372	1,527

連結 第2四半期キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位：百万円)

	当第2四半期 2017年4月1日～ 2017年9月30日	前第2四半期 2016年4月1日～ 2016年9月30日	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,162	3,708	△ 545
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,593	△ 1,261	△ 1,331
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 936	△ 1,701	765
現金及び現金同等物に係る換算差額	273	△ 751	1,024
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 93	△ 6	△ 87
現金及び現金同等物の期首残高	13,766	12,743	1,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,673	12,737	935

株式情報／会社情報

株式総数および株主数

(2017年9月30日現在)

発行可能株式総数	250,000,000株
発行済株式の総数	64,860,935株
当第2四半期末株主数	4,019名

(注) 2017年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を実施しました。これにより、発行可能株式総数は50,000,000株、発行済株式総数は12,972,187株となりました。

大株主

(2017年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
協同興業株式会社	9,229	14.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,246	3.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,091	3.22
株式会社みずほ銀行	1,735	2.68
GOVERNMENT OF NORWAY	1,726	2.66
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG	1,600	2.47
山洋開発株式会社	1,594	2.46
日本生命保険相互会社	1,394	2.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	989	1.52
株式会社八十二銀行	975	1.50

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式3,729千株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

所有者別株式分布状況

(2017年9月30日現在)



個人(その他)	14,901,189株	22.97%
金融機関	15,766,899株	24.31%
その他国内法人	16,382,313株	25.26%
外国法人など	13,258,855株	20.44%
証券会社	822,468株	1.27%
自己株式	3,729,211株	5.75%

会社概要

(2017年9月30日現在)

会社名	山洋電気株式会社
創業	1927年8月
本社所在地	〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1 TEL 03-5927-1020
資本金	99億円
社員数	3,309名(グループ全体)

グループ会社

(2017年9月30日現在)

日本	山洋工業株式会社 山洋電気テクノサービス株式会社
アジア	SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. 中山市山洋电气有限公司 山洋电气(上海)贸易有限公司 上海山洋电气技术有限公司 山洋電気(香港)有限公司 山洋电气贸易(深圳)有限公司 山洋电气精密机器维修(深圳)有限公司 台湾山洋電気股份有限公司 SANYO DENKI KOREA CO., LTD. SANYO DENKI SINGAPORE PTE. LTD. SANYO DENKI (THAILAND) CO., LTD. SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED
北アメリカ	SANYO DENKI AMERICA, INC.
ヨーロッパ	SANYO DENKI EUROPE S.A. SANYO DENKI GERMANY GmbH

取締役および監査役

(2017年9月30日現在)

※代表取締役	山本 茂生
※取締役	田村 薫
※取締役	児玉 展全
※取締役	松本 吉正
※取締役	宮田 繁二郎
取締役	三宅 雄一郎
取締役	鈴木 徹
取締役	諏訪 宏
常勤監査役	畑中 佐近
常勤監査役	天野 文雄
監査役	小倉 久幸
監査役	山本 武

※印の取締役は、執行役員を兼務

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年4月1日から起算し3ヶ月以内
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当受領株主確定日	毎年9月30日
公告の方法	電子公告の方法によりおこないます。 (やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しておこないます。)
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社 本店
お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉2-8-4 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 0120-707-843 (フリーダイヤル)

●各種手続のご連絡先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人へご連絡ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定など証券会社をご利用の株主さまは、お取引の証券会社へご連絡ください。

※証券会社をご利用でない株主さまへ
特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へご連絡ください。

特別口座での手続用紙のご請求はインターネットでも受け付けております。

ホームページアドレス

《日本証券代行》<http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

当社「IR情報」ホームページアドレス

<http://www.sanyodenki.co.jp/ir/index.html>

本ビジネスレポートには、業績予想などに関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

山洋電気株式会社

本社 〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1

電話 (03) 5927 1020

ホームページ <http://www.sanyodenki.co.jp>